

[投稿]

土木学会に海外支部誕生－台湾支所

吉川潤一 Junichi YOSHIKAWA 正会員 土木学会 国際室室長

理事会企画運営連絡会議は「JSCE 2000 - 土木学会の改革策 - 」1998年版の中で、国際部門が取りまとめた平成9年度中間報告の「土木学会の国際化の課題と国際委員会の役割」をもとに、協定学会との対応、国際化戦略についての検討課題を整理している。その中で海外に在住する会員数と会員サービスに触れ、以下のような指摘をしている。「海外会員制度や海外支部設立は、わが国の技術情報を適切かつ迅速に伝え、JSCEの情報収集・発信能力とわが国建設業の国際競争力を高めるのに効果的である。そのためには、可能とする基盤とメリットを提供できる体制を作る必要がある」

国際委員会では海外支部設立を念頭に置き、海外会員に対するサービスの向上と、日本の土木技術と技術に関心を持つ外国の土木技術者を会員として顕在化するために、国際地域別に土木学会員を組織化することとし、海外支所を設立することを決定した。これを海外支部設立の方針と活動予定として1999年3月19日の理事会に報告した。なお海外支部とは複数の海外支所を統合管理する組織である。

2000年4月19日、25名の台湾在住の土木学会会員（うち5名は日本人）が台北のグランドホテル（圓山大飯店）に集結して台湾支所の設立総会が開かれた。土木学会本部からは岡村土木学会会長、国際委員会のEllen

Wang 委員、国際室の吉川室長が出席した。台湾側からも台湾土木水利工程学会理事長の李建中氏が出席され全面的な支援を約束された。総会では支所設立のガイドラインに沿って、定款と細則が決議され、9名の理事の中から初代支所長として陳振川台湾営建研究院院長が選出された。併せて副支所長、幹事、監事も選出された。引き続き、台湾支所設立を祝う祝賀会が盛大に催された。

翌日20日には国立台湾大学社会科学学院国際会議場において、台湾支所設立を記念して「混凝土結構耐久性技術」の特別講演が企画された。約150名の参加を得て、岡村土木学会会長から「土木学会コンクリート構造物の耐久性基準の新規制定に関する紹介」、魚本東京大学教授から「日本におけるコンクリート構造物の維持管理に関する最新技術の報告」が行われた。

海外支部設置に伴う細則についても4月21日に開催された理事会で改正案が承認され、正式に土木学会の組織の中に海外支部が取り込まれた。海外支部の運営関係は国際部門が担当することとなり、具体的業務として、土木学会誌の一括送本サービス等、海外支所を窓口とする事業の支援、連絡調整が明確化された。

支所設立にあたっては、その国に在住する日本土木学会会員が少なくとも10名署名した申請書を提出することにより、理事会でその設立が承認されることが要件となる。この件に関しては、花村海外支所設立分科会長が韓国、フィリピンをそれぞれ訪問して現況調査を行っている。韓国には現在100人近くの土木学会員（95%以上が韓国人）が在住していて、近々韓国支所設立に向け動き出す予定である。フィリピンについてはフィリピン国籍の土木学会員が少ないため、土木学会への入会の勧誘を進めることの重要性が確認された。

(2000年4月27日・受付)



写真-1 岡村土木学会会長から陳振川台湾支所長に対して記念品の贈呈